



風水害対策について

雨の強さと降り方

(1時間雨量: mm)

10～20の雨(やや強い雨)



地面一面に水たまりができ、話し声が聞き取りにくくなります。

20～30の雨(強い雨)



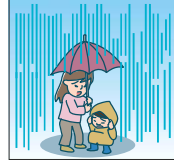
土砂降りの雨のときは、傘をさしていても濡れてしまうほどの雨です。テレビやラジオなどで今後の様子を注意し、長引きそうなら避難の心構えをしましょう。

30～50の雨(激しい雨)



バケツをひっくり返したような激しい雨のときは、山崩れやがけ崩れが起こりやすくなります。避難の準備をしましょう。

50～80の雨(非常に激しい雨)



滝のように降り、あたりが水しぶきで白っぽくなります。中小の河川は氾濫し、水害発生の可能性が高まります。

80以上の雨(猛烈な雨)

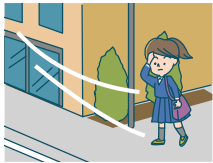


息苦しくなるような圧迫感があり、恐怖を感じます。大規模な災害が発生する恐れが強く、厳重な警戒が必要です。

風の強さと吹き方

(平均風速: m / 秒)

10以上～15未満(やや強い風)



風に向かって歩きにくくなる。傘がさせない。

15以上～20未満(強い風)



風に向かって歩けない。転倒する人もいる。

20以上～30未満(非常に強い風)



しっかりと身体を確保しないと転倒する。風で飛ばされた物で窓ガラスが割れる。

30以上～(猛烈な風)



屋外での行動は極めて危険。多くの樹木が倒れる。電柱や街灯で倒れるものがある。



洪水ハザード情報について

氾濫の種類

- 雨量の増加によってもたらされる氾濫には、川から水があふれたり堤防が決壊して起こる「外水氾濫」と、街中の排水が間に合わず、排水路などからあふれ出す「内水氾濫」の2タイプがあります。

外水氾濫

大雨の水が川に集まり、川の水かさが増し堤防を越える。あるいは堤防を決壊させて川の水が外にあふれておきる洪水。氾濫が起きると一気に水かさが増すため、最大の注意が必要。



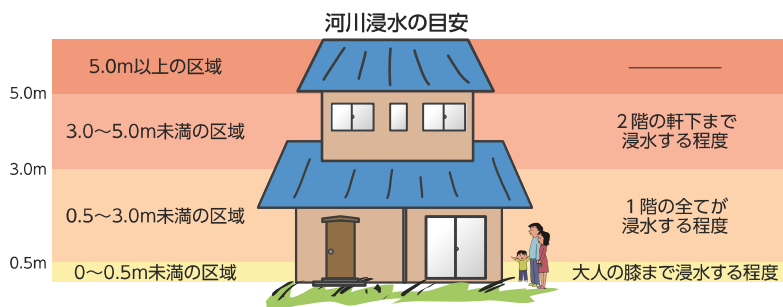
内水氾濫

その場所に降った雨水や、周りから流れ込んできた水がはけきれずに溜まっておきる洪水。川の水位が何mに達すれば警報を出すなどの対応が難しいため、注意が必要。



説明(外水氾濫)

- この「マップ」で使用しているハザード情報は、各河川が、大雨によって氾濫した場合、洪水が想定される区域とその浸水の深さを示したものです。
- 雨の降り方によっては、想定とは異なる浸水深となったり、地図に表示された浸水区域以外でも浸水することがあります。
- 川が氾濫しない場合でも、低い土地などは浸水被害(床上・床下浸水など)が起こる場合があります。十分注意しましょう。



洪水情報の種類

洪水の危険性が高まった際に発表される情報

洪水注意報(気象庁)

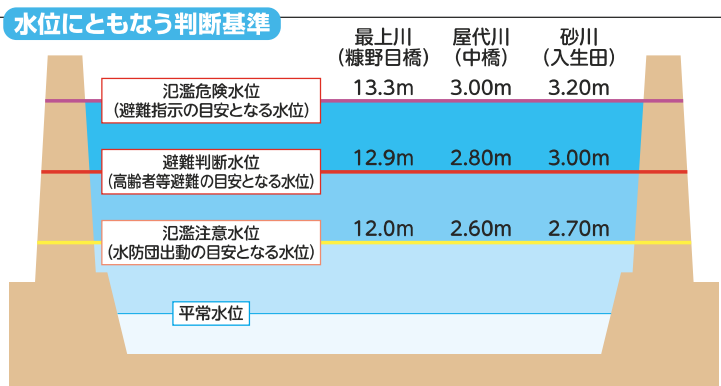
- 洪水によって災害がおこる恐れがある場合、その旨を注意する予報。

洪水警報(気象庁)

- 洪水によって重大な災害がおこる恐れがある場合、その旨を警告する予報。

指定河川洪水予報など

- 最上川・屋代川は洪水予報指定河川、天王川・砂川・鬼面川・吉野川は水位周知河川に指定されており、国土交通省又は、県が気象庁と共同で水位を示した洪水予報を発表します。



※基準水位や現況水位は、下記サイトで確認できます。
 「国土交通省 川の防災情報」 <https://www.river.go.jp/>
 「山形県 河川・砂防情報」 <http://www.kasen.pref.yamagata.jp/>



マイ・タイムライン

マイ・タイムラインとは、台風接近時などの災害時における住民一人ひとりのタイムライン（防災行動計画）であり、いざというときにあわてることがないように、避難に備えた行動を一人ひとりがあらかじめ決めておくものです。風水害時には、下記のように平常時から警戒レベルの段階に応じた行動を確認し、早めの避難を心掛けましょう。

	避難行動(とるべき行動)
平常時	☐ ハザードマップ等で自らの避難先を確認 ☐ 避難先・避難経路の確認 ☐ 非常用持出袋を作成 ☐ 避難訓練に参加
【警戒レベル1】 早期注意情報 (気象庁)	☐ 水位・気象情報の確認 ☐ 家の周りに不要物がないか確認⇒あれば撤去 ☐ 避難先の再確認 ☐ 避難経路の再確認 ☐ 非常用持出袋を手元に準備
【警戒レベル2】 大雨、洪水、高潮注意報 (気象庁)	☐ 避難時に持ち出す貴重品を手元に準備 ☐ 避難を支援してくれる人に連絡する
【警戒レベル3】 高齢者等避難(町)	☐ ガスの元栓を閉めたか確認 ☐ 戸締りの確認 ☐ 避難に時間のかかる高齢者や障がいのある人、心配な人は、早めに危険な場所から避難
【警戒レベル4】 避難指示(町)	☐ 危険な場所から安全な場所に全員避難
~~~~~<警戒レベル4までに必ず避難！>~~~~~	
【警戒レベル5】 緊急安全確保(町)	<input type="checkbox"/> 災害がすでに発生しており、命を守るための最善の行動をとる <input type="checkbox"/> 直ちに自宅の上階や高くて頑丈な建物に避難

※町使用のマイ・タイムライン様式は下記のリンク(町ホームページ)より 確認できます。

<https://www.town.takahata.yamagata.jp/material/files/group/24/timeline.pdf>



## 避難行動のポイント

### ！ 浸水が始まる前に早めの避難を

氾濫水は勢いが強く、大人の膝程度の深さで歩行が困難となる。浸水してからの自宅外へ避難は危険。気象予報や河川洪水予報などの情報をもとに、身の危険を感じたら自主的に避難を開始する。



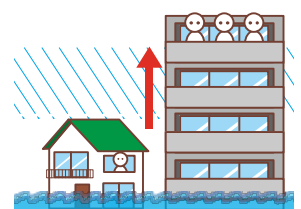
### ！ やむなく浸水の中を歩く際は

裸足、長靴は厳禁。水中で脱げにくい紐靴などが適している。また、氾濫水は濁っているため、水面下が確認できない。長い棒などを杖替わりとし、側溝やマンホール、障害物に注意する。



### ！ 状況に応じた避難を

周囲の状況が危険で避難場所まで移動できない場合は、自宅や近隣の頑丈な建物のできるだけ高い階に避難する。移動途中であっても、危険を感じた場合は、近隣の建物のできるだけ高い階に避難する。



### ！ 川や用水路に近づかない

降雨が続き不安に思っても、川や用水路、田畑の用水は絶対に見に行かない。河川の様子の確認は、ライブカメラ情報を活用する。また、避難の途中も増水した川の近くを通るのは避ける。

